

令和 5 年度

事業報告書

社会福祉法人たちばな会

指定障害福祉サービス事業所たちばな授産所

指定障害福祉サービス事業所サンステップ

指定障害福祉サービス事業所すだち

目 次

I. 社会福祉法人たちばな会事業報告	3
1. 評議員会	3
2. 理事会	3
3. 監事監査	4
4. 事業	4
5. 社会福祉充実事業	4
II. 指定障害福祉サービス（多機能型）事業所たちばな授産所 事業報告	5
1. 概況	5
2. 生活支援	5
3. 作業活動	7
4. 体育実施状況	10
5. 保健衛生	11
6. 交通安全指導	14
7. 災害防止対策	14
8. 家庭との連携	15
9. 地域交流	16
10. 各種会議	16
11. 職員研修	17
12. 利用者の状況	18
III. 指定障害福祉サービス事業所サンステップ 事業報告	20
1. 概況	20
2. 生活支援	20
3. 作業活動	22
4. 体育実施状況	24
5. 保健衛生指導	24
6. 交通安全指導	26
7. 災害防止対策	26
8. 家庭との連携	27
9. 地域交流	27
10. 各種会議	29
11. 職員研修	29
12. 利用者の状況	30
IV. 指定障害福祉サービス事業所すだち事業報告	32
1. 共同生活住居「いぶき」	32
2. 共同生活住居「すだち」	33
V. 社会福祉法人たちばな会事業報告の附属明細書	34

I. 社会福祉法人たちばな会 事業報告

社会福祉法人たちばな会定款に基づき、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ地域における自立した日常生活を営むことができるよう、多様かつ適正な障害福祉サービスの提供に努めた。

1. 評議員会

(1) 定時：令和5年6月16日（金） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 決議事項

- 第1号議案 令和4年度社会福祉法人たちばな会決算報告(案)について(含、監事監査報告)
- 第2号議案 社会福祉充実計画(案)について
- 第3号議案 社会福祉法人たちばな会の役員選任(案)について

イ 報告事項

- ・令和4年度の事業報告について
- ・理事長専決事項報告について
- ・役員賠償責任保険への加入について
- ・その他：共同生活住居すだちに関する事項について、他

(2) みなし決議：決議があったとみなされた日 令和5年5月17日（水）

ア 決議事項

- 第1号議案 社会福祉法人たちばな会定款変更の件

2. 理事会

(1) 第1回（定例）令和5年5月30日（火） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 決議事項

- 第1号議案 令和4年度社会福祉法人たちばな会事業報告(案)について
- 第2号議案 令和4年度社会福祉法人たちばな会決算報告(案)について(含、監事監査報告)
- 第3号議案 社会福祉充実計画(案)について
- 第4号議案 令和5年度定時評議員会の開催について
- 第5号議案 社会福祉法人たちばな会 経理規程の一部改正(案)について

イ 報告事項

- ・理事長専決事項報告について
- ・その他：社会福祉法人たちばな会役員候補者(案)について、他

(2) 第2回（定例）令和5年11月21日（火） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 決議事項

- 第1号議案 令和5年度事業中間報告(案)について
- 第2号議案 令和5年度会計中間報告(案)について
- 第3号議案 令和5年度会計第1次補正収支予算(案)について
- 第4号議案 社会福祉法人たちばな会職員旅費規程の一部改正(案)について

イ 報告事項

- ・理事長専決事項報告について
- ・たちばな授産所のアスファルト補修工事について、他

(3) 第3回（定例）令和6年3月19日（火） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 決議事項

- 第1号議案 令和5年度事業中間報告(案)について
- 第2号議案 令和5年度会計中間報告(案)について

- 第3号議案 令和5年度会計第2次補正収支予算（案）について
- 第4号議案 社会福祉法人たちばな会職員給与規程の一部改正（案）について
- 第5号議案 社会福祉法人たちばな会有期雇用職員就業規程の一部改正（案）について
- 第6号議案 役員賠償責任保険（案）の加入について
- 第7号議案 令和6年度事業計画（案）について
- 第8号議案 令和6年度当初予算（案）について

イ 報告事項

- ・理事長専決事項報告について
- ・その他：共同募金助成事業について、たちばな授産所の借地について、他

(4) 臨時（第1回）令和5年6月16日（金） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 決議事項

第1号議案 社会福祉法人たちばな会の理事長の選定について

イ 報告事項

社会福祉法人たちばな会定款の軽微な変更について

(5) みなし決議（第1回）決議があったとみなされた日 令和5年5月15日（月）

ア 決議事項

第1号議案 社会福祉法人たちばな会定款変更の件

第2号議案 社会福祉法人たちばな会すだち運営規程の一部改正の件

第3号議案 評議員会への提案の件

みなし決議（第2回）決議があったとみなされた日 令和5年9月13日（水）

ア 決議事項

第1号議案 社会福祉法人たちばな会有期雇用職員就業規程の一部改正の件

3. 監事監査

(1) 決算監査 令和5年5月23日（火） 於：サンステップ地域交流スペース

ア 監査内容 令和4年度の理事の業務執行状況及び法人の財政状況について

4. 事業

第二種社会福祉事業

- ・指定障害福祉サービス事業所（多機能型）たちばな授産所の運営
- ・指定障害福祉サービス事業所 サンステップの運営
- ・指定障害福祉サービス事業所すだちの運営
共同生活住居「いぶき」、共同生活住居「すだち」

5. 社会福祉充実事業

ア 共同生活住居すだちの建替え竣工、令和5年6月1日より事業開始

II. 指定障害福祉サービス(多機能型)事業所たちばな授産所 事業報告

1. 概況

多機能型事業所として生活介護事業及び就労継続支援B型事業を実施した。

令和5年度の各事業の利用者数は、年度当初、生活介護(定員20名)は前年度と変わらずの20名、4月に特別支援学校の卒業生を受け入れた就労継続支援B型(定員20名)は1名増で20名となり合計40名が在籍していたが、その後、生活介護では、利用者1名が他所の施設を利用することになり9月に退所、以後そのまま推移したので、年度末の利用者は定員に対し1名減の39名であった。

新型コロナウイルス感染症は5月には5類に変更されたが、流行が終息したということではないため、引き続き毎朝の検温や手指の消毒、マスクの着用等基本的な予防対策を継続した。そんな折、9月は、本人や家族の感染、濃厚接触の疑いあるいは予防のために欠席する利用者がいたため、両事業合わせた出席率は82%と低かったが、それ以外は例年通りの94~97%だった。行事については、納涼祭や餅つき等規模を縮小しての実施だったので地域の人たちを招くということではできなかったが、計画した行事については概ね実施することができた。

生産活動状況は、引き続き、農機・建機用電装部品の組立、段ボールの組立、優先調達法による草刈り作業をメインにしている。農機・建機用電装部品の組立については、作業単価の見直しがあったので4,187,0

48円(前年度比5.8%増)とわずかに収入が増加したが、期待して取り入れようとした給湯器の部品組立については取引企業が落札できなかったため、この分野は1,413,123円(前年度比17.0%減)だった。段ボールの組立は5,005,791円(前年度比7.0%増)と増加しているが、配送費用が上がっているため実質的には減少だった。優先調達法による除草作業が14,195,934円(前年度比25.8%増)と大幅に伸びたのは組立作業の落ち込みをカバーしようと努力した結果である。これに、農機・建機用電装部品以外の組立や物品販売、印刷を含むその他を加えて生産活動収入合計は28,745,089円(前年度比13.01%増)となった。ここから必要経費を差し引いた後、利用者には、賞与を含む工賃として、生活介護で一人平均月額15,339円、就労継続支援B型で一人平均月額33,494円を支給した。

2. 生活支援

作業班を中心として担当制を設け、担当による利用者に対する個別相談や日常生活支援を実施した。所生会活動を通して自主性と協調性を培い、各種の行事を通して集団生活のルールを学び、社会適応能力を高めた。

(1) 所生会活動

所生会は毎月末の水曜日に行い、月毎に、司会、出席、衛生、ごみ、黒板、所旗、戸締まり、花壇の水やり、炊事、トイレのスリッパを揃える、誕生会のプレゼント、お祝いの言葉等の各係について、利用者の希望をとって分担を決め積極的に取り組んだ。また、行事等の希望や参加について意見交換をした。令和5年度も継続して新型コロナウイルス感染症予防への対策確認を随時行った。

月	活 動 内 容
4	今年度の所生会活動について話し合った。
5	係活動の反省と行事の内容確認
6	係活動の反省と行事の内容確認

7	係活動の反省と行事の内容確認
8	係活動の反省と行事の内容確認
9	係活動の反省と行事の内容確認
10	係活動の反省と行事の内容確認
11	係活動の反省と行事の内容確認
12	係活動の反省と行事の内容確認
1	係活動の反省と行事の内容確認
2	係活動の反省と行事の内容確認
3	一年間の反省と来年度の所生会について話し合った。

(2) 実施行事

令和5年度も新型コロナウイルスの影響が残り行事の実施については制約があったが、感染予防に努めながら利用者のレクリエーションを中心に実施した。各行事に参加することにより、楽しみながら生活体験を豊かにし、社会性の向上に努めるとともにストレスの解消にあたった。

実施日	行事	場所	参加者	内容
4月3日	開所記念式	たちばな授産所	利用者 39人	理事長の祝辞、前年度皆勤・精勤者の表彰を行った。1名の入所。
4月29日	レクリエーション講座①	たちばな授産所	利用者 39人	兜と鯉のぼりを手作りし、鯉のぼりを空高く舞い上げた。
5月2日	ハイキング	小笠山総合運動公園	利用者 39人	小笠山総合運動公園内のハイキングコースを新緑を楽しみながら歩いた。
6月2日	浜北合同スポーツ交流会	グリーンアリーナ	利用者 39人	浜北区内7施設が一堂に会して、スポーツ交流をした。
7月7日	七夕会	たちばな授産所	利用者 35人	願い事を書いた短冊や七夕飾りを笹につけて飾った。スイカを食した。
7月22日	プチ納涼祭	たちばな授産所	利用者 39人	利用者と職員で盆踊り、カラオケ、ゲーム、模擬店等複数実施した。
8月19日	レクリエーション講座②	たちばな授産所	利用者 36人	台乗り競争、お菓子釣り、デカパン競争、箱積み競争を楽しんだ。
9月1日	総合防災訓練	たちばな授産所	利用者 36人	警戒宣言発令を想定し、連絡網による情報伝達訓練を実施した。
11月3日	日帰り旅行	岐阜・名古屋	利用者 39人	世界淡水魚水族館アクアトトぎふと名古屋城を見学した。昼は名古屋飯を堪能した。保護者の参加は17名。
11月19日	レクリエーション講座③	やまびこホール	利用者 37人	浜北森林公園内のやまびこホールにて、ボール等を使った競技を楽しんだ
12月7日	地域奉仕作業	たちばな授産所 近辺	利用者 38人	障害者週間に合わせて、施設周辺の環境整備を行った。
12月15日	お餅を食べる会	たちばな授産所	利用者 36人	今年も利用者と職員でお餅と豚汁を食した。
12月22日	クリスマス会	たちばな授産所	利用者 36人	クリスマスリースを作り、昼食を食べて楽しい時間を過ごした。
12月28日	慰労会	たちばな授産所	利用者 37人	1年間の労をねぎらい、縁起物のだるまを作り、絵馬に各自が願い事を書いた後で昼食を食べた。
1月5日	新年会	たちばな授産所	利用者 36人	仕事始めの式を行った。
1月6日	レクリエーション	たちばな授産所	利用者 35人	理事長と所長の指導のもと、恒例となった自

	講座④ 習字			分で選んだ言葉の書初めを行い、お楽しみ弁当を食べた。
1月8日	20歳を祝う会	たちばな授産所	利用者 38人	20歳を迎えた利用者1名のお祝いをした。
1月11日	鏡開き	たちばな授産所	利用者 34人	お汁粉を食べた。
2月2日	豆まき(節分)	たちばな授産所	利用者 35人	簡単なゲームを行った後、年男・年女の利用者に豆まきをしてもらい、一年の邪気払いと無病息災を祈った。
2月23日	レクリエーション講座⑤ 表現の会	たちばな授産所	利用者 39人	施設内にてダンスと歌の発表会を行った。また、後日、その様子を保護者向けにインターネット配信した。
3月21日	レクリエーション講座⑥ 春の遠足	久能山東照宮	利用者 36人	日本平ロープウェイを利用し、久能山東照宮を参拝し会食を行った。

3. 作業活動

協力企業から受託した作業を生活介護、就労継続支援B型の作業班で分担、生産した。

各班とも品質の向上と納期の厳守を基本とし、取引業者との信頼関係の強化に努めた。また、治工具の改良考案、作業方法の改善、作業室の整備等によって生産性の向上も図りつつ、各事業の利用者の特性を活かせるよう作業分担に配慮した。

生活介護班では、利用者を各自の特性や相性を考えて作業室、作業場所に配置することで、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮した。また、創作活動や軽運動等の余暇支援を取り入れ、メリハリの利いた日常生活を送れるように支援した。

就労継続支援B型班は、福祉的就労の場として生活指導、作業指導に取り組み、生活習慣の確立を目指した。従来の農機・建機用電装部品の組立の生産量が減ったこと、作業単価が低いことなどから新しく紹介された給湯器の組立を取り入れた。これにより長期に渡っての安定した売上を見込んだが、取引企業が落札できなかったため年度半ばで頓挫した。また、障害者優先調達推進法による除草作業については、組立作業の落ち込みを埋め合わせるために受注額を増やすよう努力した結果、売上は大幅に伸びた。

利用者の高齢化等もあり現状のままでは生産能力の向上は難しくなってきたので、作業種目の取捨選択を行いつつ、新規取引先の開拓を目指したい。

(1) 作業分担と作業種目

品質の確保と業者との連絡のために、担当する職員・利用者で作業班体制を組んだが、作業種目によっては作業量が極端に少なくなり、それぞれの班に固定することはできなかったので臨機の対応をした。優先調達推進法による除草作業や段ボールの組立作業は班の枠を超えた取り組みを行った。

ア、生活介護

生産高(単位:円)

班	利用者数	作業種目	月平均
E	19	就労継続B型の前工程(ターミナル入れ他)	85,027
F		段ボールの組立、パッキン入れ	463,396
G		紙すき、トイレトペーパーの販売他	106,760

イ、就労継続支援B

生産高(単位:円)

班	利用者数	作業種目	月平均
A		自動車エアコンスイッチ組立他	117,767

B	20	オイルゲージ組立、農機具シーズンスイッチ組立他	57,822
C		自動車ルームランプ組立、給湯器の部品組立他	158,896
D		汎用スイッチの組立他	25,679
ABCD	5	除草作業、印刷他	1,358,587

(2) 生産活動業者別収入状況
ア、生活介護

(単位：円)

月	日本ロック	ジェイレックス	プロシス 他1社	紙すき	トイレット ペーパー	合 計
4	85,797	482,939	55,000	2,000	75,840	701,576
5	108,891	430,608	53,000	40,000	118,080	750,579
6	101,230	515,836	55,170	1,200	93,950	767,386
7	101,418	451,749	57,125	200	77,600	688,092
8	75,229	374,232	51,075	1,500	131,850	633,886
9	65,390	388,962	53,750	1,000	63,010	572,112
10	96,240	312,610	57,431	5,000	87,100	558,381
11	94,993	377,689	62,871	7,700	57,705	600,956
12	79,136	376,063	33,523	10,869	191,510	691,101
1	75,070	422,803	17,204	51,540	50,170	616,787
2	70,194	417,220	24,035	0	155,210	666,659
3	66,734	455,082	34,782	0	58,080	614,678
合計	1,020,322	5,005,791	554,966	121,009	1,160,105	7,862,193

イ、就労継続支援B

(単位：円)

月	日本ロック	除草作業 他1社	山宗 他1社	印刷等	合 計
4	275,000	51,920	252,296	0	579,216
5	309,739	96,800	100,232	8,450	515,221
6	341,802	520,195	111,408	919,677	1,893,082
7	280,788	445,060	137,984	75,836	939,668
8	215,024	392,991	8,292	0	616,307
9	269,913	355,520	72,644	876,612	1,574,689
10	398,499	696,036	92,225	6,300	1,193,060
11	200,818	2,262,136	175,117	21,805	2,659,876
12	209,794	8,283,375	158,432	125,878	8,777,479
1	204,884	972,929	58,630	10,395	1,246,838
2	228,536	49,528	118,144	48,410	444,618
3	231,929	69,444	127,719	13,750	442,842
合計	3,166,726	14,195,934	1,413,123	2,107,113	20,882,896

(3) 月別作業収入と工賃支給状況

ア. 生活介護

(単位：円、日、時間)

項目	月	収入総額	工賃支給額	一人当たりの工賃			出席 日数	延べ 作業時間
				最高	最低	平均		
就 労 支 援 収 入 分	4	701,576	220,000	12,750	7,890	11,000	21	75.0
	5	750,579	220,000	12,730	8,120	11,000	20	72.6
	6	767,386	220,000	12,790	7,900	11,000	22	76.7
	7	688,092	220,000	12,740	7,570	11,000	22	75.7
	8	633,886	220,000	12,610	7,810	11,000	21	72.4
	9	572,112	220,000	13,530	8,900	11,000	21	59.4
	10	558,381	228,000	13,810	9,060	12,000	22	81.4
	11	600,956	228,000	13,800	8,470	12,000	22	81.0
	12	691,101	247,000	14,900	10,200	13,000	20	73.1
	1	616,787	247,000	14,920	9,190	13,000	20	72.8
	2	666,659	247,000	14,670	9,700	13,000	21	82.4
	3	614,678	266,000	15,820	10,050	14,000	21	77.2
	小計	7,862,193	2,783,000			143,000	253	899.7
	8		賞与 200,000	18,400	6,900	10,000		
	12		賞与 190,000	16,300	8,100	10,000		
	3		一時金 399,500	29,700	17,800	21,063		
	小計		789,500			41,063		
合 計	7,862,193	3,572,500			184,063	253	899.7	

(注) 賞与込みの年間の1人当たり平均工賃額は184,063円、月額割では平均約15,339円。

イ. 就労継続支援B型

(単位：円、日、時間)

項目	月	収入総額	工賃支給額	一人当たりの工賃			出席 日数	延べ 作業時間
				最高	最低	平均		
就 労 支 援 収 入 分	4	579,216	460,000	34,450	13,220	23,000	21	90.9
	5	515,221	459,990	32,060	13,260	23,000	20	86.4
	6	1,893,082	500,000	34,940	13,820	25,000	22	100.7
	7	939,668	540,000	35,810	14,810	27,000	22	98.9
	8	616,307	540,000	39,930	14,750	27,000	21	95.3
	9	1,574,689	539,990	38,410	13,540	27,000	21	90.0
	10	1,193,060	580,000	39,270	14,600	29,000	22	98.3
	11	2,659,876	600,000	41,900	15,560	30,000	22	94.0
	12	8,777,479	600,000	42,370	15,350	30,000	20	85.8
	1	1,246,838	660,000	47,900	16,720	33,000	20	85.7
	2	444,618	660,000	47,590	16,370	33,000	21	97.2
	3	442,842	800,000	58,870	17,870	40,000	21	91.7
	小計	20,882,896	6,939,980			347,000	253	1,114.9
	8		賞与 200,000	16,200	3,500	10,000		
	12		賞与 200,000	14,500	3,600	10,000		
	3		一時金 689,600	54,300	12,100	34,930		
	小計		1,098,600			54,930		
合 計	20,882,896	8,038,580	-		401,930	253	1,114.9	

(注) 賞与込みの年間の1人当たり平均工賃額401,930円、月額割では平均33,494円。

(4) 就労支援会計収支状況

(単位：円)

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
1. 就労支援事業収入	28,745,089	1. 利用者工賃等配分額	11,611,080
(1) 受託収入	11,160,928	(1) 利用者工賃	9,722,980
(2) 印刷収入	240,391	(2) 利用者賞与	1,888,100
(3) 紙すき収入	121,009	(3) 実習生分配金	0
(4) 施設外就労事業収入	14,195,934	2. 必要経費	15,133,956
(5) 製品販売事業	3,026,827	3. 積立金積立	2,000,000
2. 助成金	0	4. 次年度繰越金	53
合 計	28,745,089	合 計	28,745,089

(5) 配分率、経费率及び繰越率

(単位：円、%)

総収入	利用者工賃等配分額	必要経費	積立金積立	次年度繰越金	配分率	経费率
28,745,089	11,611,080	15,133,956	2,000,000	53	40.4%	52.6%

4. 体育実施状況

利用者の健康な生活を維持し、体力の維持と強化のために朝礼終了時の体操や、作業間のストレッチ、定時のジョギング及び体育的行事（野外スポーツ）を実施した。

(1) 体力作りとストレッチ

項 目	日 時	内 容
ラジオ体操	8:40 ~ 8:45 (毎朝)	ラジオ体操第一を始業前の準備運動を兼ねて全員で行った。
ストレッチ (業間体操)	10:25~10:30 (毎日)	それぞれの作業の持ち場で作業の間に肩こり、腰痛対策の一環としてストレッチを実施した。
体 操	14:30~15:15 (生) 15:15~15:45 (B) (月~金)	生活介護の利用者と継続支援B型の利用者に分かれ、それぞれの心身の状況に合わせた体力づくり（ジョギングや歩行訓練）を実施した。また、雨天時は訓練棟でストレッチやリズムダンスを行った。

(2) 体育的行事

項 目	日 時	内 容
野外スポーツ	13:00~15:30	4, 6, 10, 1, 3 月の 5 回は県立浜北森林公園で体力別に 3 班に分かれてウォーキングや散策を行い、雨天等で森林公園の利用ができなかった 5, 7, 9, 11 月は所内レクを実施した。2 月は花粉症の時期と重なり計画をしなかった。

(3) 生活介護支援

項目	日時	内容
スペースタイム	15:15～15:45 (月～金)	生活介護事業では、ジグソーパズル・壁紙制作などを行い、利用者の心身の安定を図るための時間として実施した。

5. 保健衛生

(1) 健康管理

新型コロナウイルスの5類移行後も感染防止の為、登所前の検温・記録を習慣化し、登所後は手指の消毒や手洗いを頻繁に行うとともに健康状態の変化を見逃さないように努めた。毎月、身長・体重・血圧・体脂肪の測定を実施して日常の健康管理の目安とし、昼食後の歯磨き、作業後のうがい・手洗い、マスクの着用と手指の消毒を毎日の習慣とした。新型コロナウイルスに感染や疑いが出た時は状況に応じて抗原検査を随時実施した。

定期健康診断は春に血液・尿検査、秋にX線を実施し、嘱託医による内科検診を年3回行った。歯の健康センターによる歯科健康診査を実施。保護者には健診結果を通知し、異常のあった利用者には、掛かりつけの医師による再診を助言した。ブラッシング指導は隔年で実施しており、今年度は歯科衛生士延べ8名の協力で行い、保護者25名の参加があった。

看護師による[ナース便り]の発行により利用者・保護者へ健康管理や感染症予防等の啓発に努めた。

ア、健康診断実施状況

区分	実施日	人数	内容
血液検査	4月7日	38	貧血、肝機能、血中脂質、血糖、尿酸
尿検査	4月7日	38	蛋白、糖、潜血
X線検査	9月11日	32	胸部X線間接撮影
嘱託医による内科検診	4月19日	37	問診、聴打診、血圧
	8月9日	37	
	12月13日	38	
歯科健診	10月26日	39	

イ、健康診断結果

(※重複あり、単位：人)

区分	男	女	計
血液一般	7	1	8
糖代謝	4	2	6
肝機能検査	4	3	7
脂質代謝	5	4	9
腎機能	3	2	5
尿定性検査	1	1	2
計	24	13	37

ウ、ブラッシング指導

実施日	人数	備考
6月15日	15	保護者10名、歯科衛生士3名
7月6日	15	保護者9名、歯科衛生士3名
8月3日	10	保護者6名、歯科衛生士2名
合計	35	保護者25名、歯科衛生士延べ8名

(2) 衛生指導

利用者、職員全員で、毎日終業前の15分間で所内全般の清掃を実施し、衛生的な環境保持に努めた。又、作業後やトイレ使用後及び給食前に手洗い、手指の消毒、マスクの着用を励行し毎日の習慣とするよう心掛けた。朝に作業室と食堂を主にアルコール消毒を行い、同時に室内の換気に努めた。

(3) 感染症予防

ア、新型コロナウイルス対策とインフルエンザ対策の実施

令和5年度は新型コロナウイルスの5類移行後も検温と体調のチェック、手洗いと手指の消毒の実施、マスク（不織布）着用の呼びかけを行い、換気を徹底し3密にならないように予防対策を取って対応した。共有する場所（作業室・更衣室・食堂等）の消毒を徹底した。11月にはインフルエンザ対策として、希望する利用者にインフルエンザの予防接種を行った。

(4) ナース便りの発行

発行日	内容
令和5年5月16日	脂質代謝異常（高脂血症）はどんな病気？
6月21日	細菌性食中毒について
7月20日	熱中症について
8月11日	水筒の簡単なお手入れ方法
9月7日	秋の健康診断について
10月13日	歯科健康診査のお知らせ
11月10日	歯周病健診を受けることの大切さ
12月8日	低温やけどについて
令和6年1月12日	冬場の乾燥肌を防ぐための対策
2月9日	食生活から身体の免疫力を高めよう
3月7日	今からできる花粉症対策のポイント

(5) 出欠状況

出欠状況は利用者の心身の状況のバロメーターであり、データを取りながら家庭と協力して出席率を高めるよう努めた。

ア、月別出欠状況

【生活介護】

(単位:日、%)

月	在籍者数	開所日数	出席すべき延べ日数	欠席延日数	出席延日数	出席率(%)
4	20	21	420	14	406	96.67

5	20	20	400	14	386	96.50
6	20	22	440	19	421	95.68
7	20	22	440	23	417	94.77
8	20	21	420	29	391	93.10
9	20	21	420	106	314	74.76
10	19	22	418	33	385	92.11
11	19	22	418	15	403	96.41
12	19	20	380	15	365	96.05
1	19	20	380	21	359	94.47
2	19	21	399	14	385	96.49
3	19	21	399	17	382	95.74
計	234	253	4934	320	4614	93.51

※ 9月に新型コロナウイルス感染の利用者、家族の感染での欠席者が多く出席率が極端に悪かった。

【就労継続支援B型】

(単位：日、%)

月	在籍者数	開所日数	出席すべき延べ日数	欠席延日数	出席延日数	出席率(%)
4	20	21	420	12	408	97.14
5	20	20	400	14	386	96.50
6	20	22	440	12	428	97.27
7	20	22	440	13	427	97.05
8	20	21	420	8	412	98.10
9	20	21	420	45	375	89.29
10	20	22	440	23	417	94.77
11	20	22	440	22	418	95.00
12	20	20	400	12	388	97.00
1	20	20	400	16	384	96.00
2	20	21	420	13	407	96.90
3	20	21	420	20	400	95.24
計	240	253	5060	210	4850	95.85

※ 9、10月には新型コロナ感染や、家族感染での欠席者が相次ぎ、出席率が下がった。

イ、月別皆勤者の状況

年間を通じての皆勤者は男子1名、精勤者は(欠席、遅刻、早退合わせて3回以内)男2名と新型コロナウイルスの感染の影響が強かった。

【生活介護】

(単位：人、%)

月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率	月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率
4	20	12	60.00	10	19	9	47.37
5	20	11	55.00	11	19	13	68.42
6	20	11	55.00	12	19	11	57.89
7	20	10	50.00	1	19	9	47.37
8	20	9	45.00	2	19	11	57.89
9	20	1	5.00	3	19	12	63.16
				延べ人数	234	Av. 9.92	

【就労継続支援B】

(単位: 人、%)

月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率	月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率
4	20	14	70.00	10	20	12	60.00
5	20	14	70.00	11	20	13	65.00
6	20	16	80.00	12	20	13	65.00
7	20	15	75.00	1	20	14	70.00
8	20	15	75.00	2	20	13	65.00
9	20	9	45.00	3	20	10	50.00
延べ人数					240	Av. 13.16	

6. 交通安全指導

年間2回の実施をすべて外部機関への依頼によって実施した。どの交通安全教室も昨年度も実施したものであったが、各回とも年間で複数回実施している実績ある交通安全教室なので、利用者に対して質の高い指導を提供できた。

実施日	指導者	内容
8月11日	ヤマト運輸	夏季休暇前にヤマト運輸(株)によるクロネコヤマト交通安全教室を開催。動画等を使用して、夏季休暇中の交通事故防止に努めた。
12月25日	交通安全指導員 警察官	年末年始の休暇を迎えるにあたり、交通安全協会浜北地区支部の交通安全指導員より、交通ルールに関する指導を受けることにより、利用者の事故防止の意識を高め、休暇中の交通安全に努めた。

7. 災害防止対策

火災と地震の訓練を主に、8月には大雨や洪水等非常災害の発生を想定した防災訓練を実施した。地域防災訓練は家族での参加を呼びかけて防災指導に努めた。また、日ごろから防災設備の自主点検を実施し、防災組織、緊急連絡網の確認を行い、連絡網を使った連絡訓練も随時実施した。

月別の防災訓練の実施状況は次表のとおりである。

【防災訓練実施状況】

実施日	訓練種目	災害発生の想定及び対応					
		参加人数	時刻	火点	状況	避難経路・手順等	留意点
4月19日	火災通報	利用者 0 職員 12 その他 0	17:10		利用者帰宅後、各職員の受け持ち部署より出火したことを想定し、「火災発生」の発声及び所長への報告、通報訓練を実施した 一斉放送による避難誘導の指示の確認と消火班の行動、残留者確認の報告の仕方を確認した。		
5月18日	地震避難	利用者 36 職員 12 その他 0	14:00		作業時間中に地震発生	机や作業台の下に身を隠した。揺れが収まってから窓は開けたまま外へ避難。	落下物を意識して作業台等の下に身を伏せる。効果音が鳴っている間は動かない。
6月9日	火災避難	利用者 42 職員 14 その他 1	11:00		作業時間中に地震発生	机や作業台下に身を隠した。揺れが収まってから外へ避難した。	職員の指示に従って行動する。効果音が鳴っている間は動かない。点呼を確実に行う。

7月28日	大雨洪水伝達	利用者 38 職員 13 その他 39 (保護者)	15:00		浜松市から大雨による防災情報警戒レベル3(避難準備・高齢者等避難)が発令された。	荷物をまとめて帰宅準備を行い食堂で待機。保護者会連絡網を使って迎えを要請した。	保護者会連絡網の確認 緊急時の利用者、職員の行動確認
8月29日	総合	職員 2 寮生 3 保護者 0	18:30	GHすだち	地震後にガス漏れにより出火	各部屋から避難し、世話人が消防への通報。関係職員を招集した。	避難経路の確認。 職員連絡網の確認と消防への通報実施
8月31日	火災伝達	職員 14人	19:00	すだち厨房	職員帰宅後、すだち厨房からガス漏れによる出火。	帰宅後の火災に対して職員連絡網を使って伝達訓練を行った。	職員連絡網の確認と開所時間外の火災等に対する確認
8月31日	総合	職員 2 寮生 4 保護者 0	18:30	GHいぶき	地震後にガス漏れにより厨房から出火	各部屋から避難し、世話人が消防への通報。関係職員を招集した。	避難経路の確認。 職員連絡網の確認と消防への通報訓練実施
9月1日	総合防災訓練	利用者 38 職員 14 その他 38 (保護者)	8:50		予知情報のない突発的な大規模地震発生	保護者会連絡網を使って情報伝達訓練と引渡し訓練を実施した。避難時の三密の避け方等について話を行い、防災食を食べた。	保護者連絡網の確認
10月16日	地震避難	利用者 38 職員 12 その他 0	14:40		作業開始直後に地震が発生	机や作業台の下に身を隠した。揺れが収まってから外へ避難した。	落下物に配慮して避難できたか 急な異変に対応できるか
11月1日	地震火災通報避難	利用者 38 職員 12 その他 0	10:20	厨房	作業時間中に地震が発生し、厨房より出火	安全な場所に身を伏し地震の収まるのを待って落下物に注意し、非常口から避難。消火バケツを使って消火訓練と通報訓練実施	社会福祉施設防災訓練として実施 避難経路の確認
11月1日	総合	利用者 3 職員 3	19:00	すだち	地震発生後に厨房のガスコンロから出火	各部屋より避難。連絡網で職員を招集した。119番通報は世話人が行った 水消火器で消火訓練実施	社会福祉施設防災訓練として実施。避難経路の確立。連絡網の確認と招集時間の確認。水消火器を使った消火訓練実施
11月2日	総合	利用者 4 職員 3	18:30	いぶき			
12月22日	火災避難消火	利用者 37 職員 13 その他 0	10:00	食堂	食堂のコンセントに埃が貯まり出火	火点を避け施設東側より避難する 抜き打ちで実施	避難経路の的確な指示を出す
1月16日	地震避難	利用者 37 職員 13 その他 2	11:00		作業時間中に地震発生	身近な机や作業台の下に身を隠した。	人員点呼で返事をしっかりさせる。落下物を意識した避難行動をとる
2月13日	地震避難	利用者 33 職員 14 その他 0	8:55		登所直後の時間帯での地震発生	落下物を避けて避難 頭部を保護する「だんごむし」の姿勢を取った。	きちんと頭部を守った避難姿勢がとれたか(だんごむしの姿勢)
3月20日	火災避難	利用者 39 職員 12 その他 0	11:00	訓練棟南側	野火による延焼	火点から離れた非常口から避難する。	所内放送を聞いてからの避難開始

8. 家庭との連携

家庭との連携を密にするため、保護者と相互に連絡を取り合っ利用者支援にあたるよう努めた。

項目	期間	内容
個別面談	随時	随時個別面談を実施し、状況に応じた相談に努めた。
モニタリング	生活介護 9,3月 就労継続B 9,3月	個別に時間設定をし、保護者同席により個別支援計画に基づいた目標を評価し、必要に応じて見直し又は、変更を行い、施設での作業や生活の様子、また家庭生活等の情報交換も行った。
連絡帳	随時	連絡帳により、家庭との連携を密にするよう努めた。

授産所通信等	毎月1回 他 随 時	「授産所通信」を発行し、月の予定等を伝えた。行事や会合等の事務連絡を随時行った。
保護者会		4月の総会は書面表決を行い、5、11、1、3月に定例役員会を、4月に臨時役員会を実施した。

9. 地域交流

(1) ボランティアの受け入れ

ア、絵手紙教室

「絵手紙の町浜松」を育てる会代表の太田浩一様を講師に招いて絵手紙教室を実施した。

月	回数	延べ人数	参加者（講師）
4	1	2人	「絵手紙の町浜松」を育てる会
6	1	2人	「絵手紙の町浜松」を育てる会
9	1	2人	「絵手紙の町浜松」を育てる会

※講師は有償ボランティア

(2) 実習生の受け入れ

実 施 期 間	学 校 名	参 加 者	人 数
12月5日～12月7日の3日間	県立浜北特別支援学校	高等部1年	1人

(3) 作業実習の受け入れ

浜松市立浜北北部中学校発達支援学級

月	回数	延べ人数	内 容
7	3	7人	組み立て等
10	1	3人	組み立て等

(4) 作業体験実習等の受け入れ

実 施 期 間	学 校 名	延べ人数	内 容
9月14・15日	浜松市立曳馬中学校発達支援学級	6人	組み立て等
11月21・22日	浜松市立笠井中学校発達支援学級	6人	組み立て等

(5) 単位実習、職員研修等の受け入れ

社会福祉援助技術現場実習

実 施 期 間	学 校 名	人 数
7月3日～7月18日	浜松学院大学短期大学部幼児教育科	2年生1人
7月20日～8月4日	浜松学院大学短期大学部幼児教育科	2年生1人

10. 各種会議

所内会議を実施した。

会 議	実施（曜）日	会 議	実施（曜）日
職員打ち合わせ会	毎朝	支援部会議	第四以外の水曜日
職員会議	第四水曜日	ケース会議	支援部会と同時開催

11. 職員研修等

以下の職員研修等に参加した。

研修日	研修名	場所	主催者	参加者
4月28日	県知的障害者福祉協会総会	静岡市	県知協	施設長
5月15日	西部施設連絡会施設長会	浜松市	西部施設連絡会	施設長
5月24日	静岡県社会就労センター協議会総会	静岡市	県セルフ協	施設長
5月26日	県知協 施設長・主任者合同会議	静岡市	県知協	支援員1
6月8日	市福祉協「児童・障害部会」施設長会	浜松市	市社会福祉施設協議会	施設長
6月9日	県知協 第57回福祉協大会	静岡市	県知協	支援員
6月23日	浜松市施設連絡協議会総会	浜松市	市社会福祉施設協議会	施設長
6月27日	県セルフ協視察研修	東京都	県セルフ協	支援員
6月29日	浜北・天竜エリア連絡会全体会	浜松市	浜北・天竜エリア連絡会	サビ管
7月6日	衛生推進者養成講座	浜松市	浜松労働基準協会	支援員
7月24日	県セルフ協視察研修	千葉県	県セルフ協	施設長
9月13・14日	東海地区知的障害者関係施設長等研究協議会	岐阜市	東海地区福祉協会	施設長
10月5・6日	東海地区知的障害者福祉協会職員研究集会	浜松市	東海地区福祉協会	施設長
11月13日	関東セルフ協 研修大会	三島市	関東セルフ協	施設長 支援員
12月7日	県知的福祉協会生産活動・就労支援部会 職員研修	静岡市	県知協	施設長 支援員
1月25・26日	県知協施設長会	静岡市	県知協	施設長
2月19日	浜松市施設協研修	浜松市	市施設協	支援員
2月21・22日	全国セルフ協施設長会	東京	セルフ協	施設長
3月6日	浜北・天竜エリア連絡会全体会	Zoom	浜北・天竜エリア連絡会	サビ管
3月13日	虐待防止研修	Zoom	県セルフ協	支援員
3月13日	県セルフ協総会	Zoom	県セルフ協	施設長
3月15日	県知的障害者総会	静岡市	県知協	施設長

12. 利用者の状況

(1) 入退所状況 (R5. 4. 1～R6. 3. 31)

(在籍人数は月末現在、単位:人)

区分/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
現員	男	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
	女	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13
在籍	計	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	39	39

(注) 9月に女子1名が退所。

(2) 利用者の年齢

(令和6年3月31日現在、単位:人)

年 令	男	女	計
15～19歳	1	0	1
20～29歳	7	8	15
30～39歳	4	0	4
40～49歳	6	3	9
50歳以上	8	2	10
計	26	13	39

平均年齢 男 40.6歳 女 35.4歳 全体 38.9歳

(3) 入所期間

(令和6年3月31日現在、単位:人)

期 間	男	女	計
1年未満	1	0	1
1年以上～3年未満	0	1	1
3年以上～5年未満	1	2	3
5年以上～7年未満	1	0	1
7年以上～9年未満	1	1	2
9年以上～11年未満	3	2	5
11年以上～13年未満	5	3	8
13年以上～15年未満	2	0	2
15年以上～17年未満	1	0	1
17年以上～19年未満	2	1	3
19年以上～21年未満	0	0	0
21年以上	9	3	12
計	26	13	39

平均入所期間 男 18.0年 女 13.3年 全体 16.5年

(4) 入所直前の状況

(単位:人)

区 分	男	女	計
特別支援学校等	19	9	28
児童、成人施設	2	3	5
就労、家業の手伝い、在宅	5	1	6
計	26	13	39

(注) 就職経験者は、男4人 女1人 計5人である。

(5) 通所方法 (単位:人)

区 分	通所バス	電 車	自 転 車	バ ス	徒 歩	自家用車	計
男	8	6	0	2	4	10	30
女	3	5	1	0	0	5	14
計	11	11	1	2	4	15	44

*重複あり

(6) 手帳の所持

ア 療育手帳

(単位:人)

区 分	A	B	なし	計
男	20	6	0	26
女	11	2	0	13
計	31	8	0	39

イ 身体障害者手帳

(単位:人)

区 分	1 級	2 級	3 級	4 級	6 級	計
男	0	1	1	0	1	3
女	0	0	1	1	0	2
計	0	1	2	1	1	5

ウ 障害福祉サービス受給者証

(単位:人)

区 分	未判定	1	2	3	4	5	6	計
男	3	0	1	4	10	6	2	26
女	1	0	1	2	6	3	0	13
計	4	0	2	6	16	9	2	39

(7) 心身障害の併有状況

(単位:人)

区 分	男	女	計
四肢体幹機能に問題のある人	2	2	4
てんかん治療を受けている人	6	4	10
現在精神神経科に通院し投薬を受けている人	5	2	7
情緒不安定・その他特異な行動のある人	4	3	7
自閉症（自閉症スペクトラム障害）の診断がある人	10	4	14
言語に問題のある人	23	13	36
視力に問題のある人	7	6	13
聴力に問題のある人	1	0	1
ダウン症	4	4	8
計	62	38	100

(注) 重複障害を含む

Ⅲ. 指定障害福祉サービス事業所サンステップ 事業報告

1. 概況

令和5年度は、それまでの多機能型から就労移行支援を廃し就労継続支援B型のみの単独事業所として再スタートした。利用者の減少による職員配置等の負担は解消されたが、比較的短期間の訓練で一般就労を目指す事業の廃止は、障害を持つ人の進路選択を狭めることにもなった。

就労継続支援B型（6名増員により定員は40名）は、開所日数が253日、延べ利用者数が8,257人で出席率は93.81%。出席率がやや低いのは、長期にわたり体調不良を訴えたり、利用している他施設での感染症発生の影響を受けたりした利用者がいたことによるもので、その他の利用者は概ね健康で、元気に施設の日課をこなした。

生産活動状況については、昨年同様、自動車・農機具関連の部品組立及びガスメーター部品の組立に取り組んだ。自動車・農機具関連の部品組立における収入は18,003,530円（前年度比△4.4%）、ガスメーターの部品組立における収入は1,975,867円（前年度比+52.5%）、物品販売等650,500円の合計20,629,897円（前年度比+8.2%）となり、必要経費を差し引き賞与も含め一人月額平均32,770円の工賃を支給した。

当面の課題は、高齢化や重度化を理由にした退所者が少なからずいたが、なかなか定員を充足できないこと。特別支援学校や相談業所等に事業所の現状を話し、協力を呼びかけて利用者の確保に努めたい。

2. 生活支援

作業班を中心として担当制を設け、担当による利用者に対する個別相談や日常生活支援を実施した。所生会活動を通して自主性と協調性を育て、各種の行事を通して集団生活のルールを学び、社会適応能力を高めた。

(1) 所生会活動

所生会は毎月末の木曜日に開催し、利用者の希望のもとに、月毎に、司会・出席・衛生・ごみ・戸締まり・花壇の水やり・炊事・トイレのスリッパを揃える係等、また誕生会のプレゼントを渡す、お祝いの言葉を言う等の担当を決め、各々が自主的、積極的に取り組んだ。

月	活 動 内 容
4	今年度の所生会活動（係活動の役割、誕生会）について話し合った。
5	係活動の反省と行事の内容について確認した。
6	係活動の反省と行事の内容について確認した。
7	係活動の反省と行事の内容について確認した。
8	係活動の反省と行事の内容について確認した。
9	係活動の反省と行事の内容について確認した。
10	係活動の反省と行事の内容について確認した。
11	係活動の反省と行事の内容について確認した。
12	係活動の反省と行事の内容について確認した。
1	係活動の反省と行事の内容について確認した。
2	係活動の反省と行事の内容について確認した。
3	一年間の反省と来年度の所生会、誕生会用プレゼントについて話し合った。

(2) 実施行事

次のとおり、利用者のレクリエーションを中心に行事を実施した。各行事に参加することにより、楽しみながら生活体験を豊かにし社会性の向上に努めた。また、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、行事の中止もあったが出来るだけ開催するよう努力した。

実施日	行事	場所	参加者	内容
4月3日	開所記念式	当施設	利用者 35名	二橋 寛理事長を迎え、新しい利用者の紹介、令和4年度の皆勤・精勤賞の表彰を行った。
4月29日	レクリエーション	当施設	利用者 33名	母の日が近いこともあり、花飾りの製作を行い、ダンスをして気分転換を図った。
5月12日	ハイキング	のんほいパーク	利用者 34名	のんほいパークを4グループに分かれ散策を行った。
6月2日	浜北合同スポーツ交流会	浜北グリーンアリーナ	利用者 32名	3年超しの開催となり、感染症対策を行って他施設との交流を行った。
7月22日	ふち納涼祭	当施設	利用者 31名	感染症対策を行い、カラオケ・ゲーム(魚釣り、宝探しなど)を楽しみ、食事もチケットで引き換え方法を取り提供した。
8月19日	レクリエーション	当施設	利用者 30名	夏季の楽しみとして、水鉄砲ゲームとうちわ製作を行い楽しんだ。
9月1日	総合防災訓練	当施設	利用者 31名	南海トラフ地震を想定。地震と火災による防災訓練を行い、防災教育として地震災害の動画を視聴した。また、防災食の試食を行った。
11月3日	日帰り旅行	沼津方面	利用者 30名	酪農王国オラッチェでは食事と動物との触れ合いを行い、沼津港深海水族館では深海魚の鑑賞とお土産の購入し、久しぶりに保護者と一緒に旅行を楽しんだ。
12月1日	地域奉仕作業	当施設周辺	利用者 32名	金原用水沿いの草刈りと施設敷地周辺等の除草・清掃作業を行った。
12月3日	地域防災訓練	各地域	利用者 4名	各地域で行われる防災訓練に保護者と一緒に参加するよう要請した。
12月15日	お餅を食する会	当施設	利用者 31名	感染症対策を行い、あんこ餅・黄粉餅・豚汁を利用者へ提供し会食した。
12月15日	大掃除	当施設	利用者 31名	施設内の美化のため、作業室(3部屋)・食堂、地域交流スペースのワックス掛けを行った。
12月22日	クリスマス会	当施設	利用者 32名	カレンダー・年賀状を製作し、おやつはアイスを各自でデコレーションして楽しんだ。
12月28日	慰労会	当施設	利用者 31名	個人のロッカーなどを掃除し、カード作りやゲームを楽しんだ。食事はハンバーガーを提供し1年の労をねぎらった。
1月6日	新年会	当施設	利用者 28名	土曜日課でゲームやカラオケを行い、昼食はいずみ食品のお弁当を提供した。その後、1年の抱負を1人ずつ発表してもらった。
2月2日	節分	当施設	利用者 31名	感染症対策を行い、玉入れゲームとお菓子拾いゲームを行い、一年の邪気払いと無病息災を祈った。
3月15日	春の遠足	浜岡方面	利用者 32名	浜岡原子力発電所の見学を行い、なぶら市場で昼食を食べお土産の購入を行った。

3. 作業活動

協力企業から受託した作業を6つの作業班で分担、生産した。

各班とも治工具の改良考案、作業方法の改善、作業室の整理整頓等の5Sに取り組み、生産性の向上も図りつつ取引業者との信頼関係の強化を図り、支給工賃の確保増額に努めた。

(1) 作業分担と作業種目

品質を確保するために、担当する職員・利用者の異動を少なくして、作業班体制を組んだ。

【就労継続支援B】

生産高(単位：円)

班	利用者数	作 業 種 目	(月平均)
1	6	農機具用小型照光スイッチ組立	5,746,408
2	6	矢崎3軸アッシー ブリッジアッシー	1,639,028
3	5	農機具シーソースwitch組立	2,959,886
4	6	農機具用大型照光・操作スイッチ組立 自動車・建設用機械等のターミナル差し込み 建設用スイッチの端子差し込み等	2,413,875
5	5	農機具コンバインセンサースイッチ組立	4,249,498
6	5	農機具スタータースイッチ組立、新興細巾織物 添付書類アッシー	1,164,981
		物品販売等	53,750

(2) 生産活動業者別収入状況

【就労継続支援B】

(単位：円)

月	日本ロック	矢崎エナジ	新興細巾織	物品販売等	合 計
4	1,387,137	135,137		44,240	1,566,514
5	1,656,128	98,376		75,600	1,830,104
6	1,792,075	96,562		75,680	1,964,317
7	1,716,710	181,356		252,000	2,150,066
8	1,465,730	157,977		16,800	1,640,507
9	1,288,562	183,993		16,800	1,489,355
10	1,522,420	179,391		22,400	1,724,211
11	1,578,259	195,157		50,680	1,824,096
12	1,352,482	206,006		43,200	1,601,688
1	1,390,711	130,077		5,600	1,526,388
2	1,360,381	191,173		14,000	1,565,554
3	1,492,935	220,662	5,500	28,000	1,747,097
合計	18,003,530	1,975,867	5,500	645,000	20,629,897

(3) 月別作業収入と工賃支給状況

【就労継続支援B】

(単位：円、日、時間)

項目	月	収入総額	工賃支給額	一人当たりの工賃			出席 日数	延べ 作業時間
				最高	最低	平均		
就 労 支 援 収 入 分	4	1,566,514	936,000	37,150	9,030	26,000	21	3216.0
	5	1,830,104	917,600	36,460	7,670	26,000	20	2874.5
	6	1,964,317	910,000	36,630	6,590	26,000	22	3314.0
	7	2,150,066	980,000	39,610	8,210	28,000	22	3305.5
	8	1,640,507	980,000	41,090	9,250	28,000	21	2919.0
	9	1,489,355	980,000	39,180	3,430	28,000	21	3116.0
	10	1,724,211	1,050,000	42,280	4,310	30,000	22	3288.5
	11	1,824,096	1,020,000	41,560	3,630	30,000	22	3397.5
	12	1,601,688	990,000	40,520	11,080	30,000	20	2819.5
	1	1,526,388	1,088,000	44,110	11,430	32,000	20	3007.0
	2	1,565,554	1,120,000	47,700	4,330	32,000	21	3084.5
	3	1,747,097	1,089,000	46,040	11,440	33,000	21	3173.0
	小計	20,629,897	12,060,600	492,330	90,400	349,000	253	37515.0
	8		賞与 350,000	16,000	700	10,000		
	12		賞与 340,000	15,500	500	10,000		
	3		一時金 800,000	37,200	4,600	24,242		
	小計		1,490,000	68,700	5,800	44,242		
合計		20,629,897	13,550,600	561,030	96,200	393,242		

(注) 年間1人当たり平均工賃額(賞与込)は393,242円/年、月額割では平均32,770円であった。

(4) 就労支援会計収支状況

(単位：円)

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
1. 就労支援事業収入	20,629,897	1. 利用者工賃等配分額	13,550,600
(1) 受託収入	19,984,897	(1) 利用者工賃	12,060,600
(2) 物品販売等	645,000	(2) 利用者賞与	1,490,000
(3) その他の事業収入		2. 必要経費	7,078,602
		3. 積立金積立	
		(1) 工賃変動積立預金	0
		(2) 設備等整備積立金	0
		4. 次年度繰越金	695
合 計	20,629,897	合 計	20,629,897

(5) 配分率、経費率及び繰越率

(単位：円、%)

総収入	利用者工賃等配分額	必要経費	次年度繰越金	配分率	経費率
20,629,897	13,550,600	7,078,602	695	65.7%	34.3%

4. 体育実施状況

利用者の健康な生活を維持し、体力の維持・強化のために朝礼後の体操や、作業中のストレッチ、定時のジョギング及び体育的行事（野外スポーツ）を計画的に実施した。

(1) 体力作りとストレッチ

項目	日時	内容
ラジオ体操	8:40～8:45 (毎朝)	ラジオ体操第一を始業前の準備運動を兼ねて全員で行った。
ストレッチ	10:25～10:30 (毎日)	それぞれの作業の持ち場で業間体操として手・足・首・腰・胴を中心に10秒間同じ姿勢を保つストレッチを実施した。
体操	15:15～15:45 (月・水～金)	ジョギングや歩行訓練を中心とし、それぞれの心身の状況に合わせた体力づくりを実施した。また、雨天時などは地域交流スペースで動画を活用しストレッチやダンス（踊り）等を行った。

(2) 体育的行事

項目	日時	内容
野外スポーツ	13:00～15:30 (年6回)	バス等で森林公園まで移動し3班に分けウォーキングや散策を実施した。(4, 6, 7, 9, 1, 2月)

5. 保健衛生指導

(1) 健康管理

毎月、身長・体重・血圧・体脂肪の測定を実施して日常の健康管理の目安とし、昼食後の歯磨き、作業後のうがい・手洗いを毎日の習慣とした。

定期健康診断は春に血液・尿検査、秋にX線を実施し、嘱託医による内科検診を年3回実施した。保護者には健診結果を通知し、結果に異常のあった利用者については、保護者に掛かりつけの医師による再診を助言した。

10月には歯科健診を行い、虫歯や歯周病のある人には通院治療を助言した。

ア、健診実施状況

区分	実施日	人数	内容
血液検査	4月7日	30人	貧血、肝機能、血中脂質、血糖、尿酸
尿検査	4月7日	31人	蛋白、糖、潜血
X線検査	9月11日	30人	胸部X線間接撮影
嘱託医による内科検診	4月19日	32人	問診、聴打診、血圧
	8月9日	32人	
	12月13日	32人	
歯科健診	10月26日	32人	浜松市による施設歯科健康診査

イ、健康診断結果

(単位：人) ※重複あり

区分	男	女	計
血球計数	0	1	1
糖代謝	1	0	1
肝機能検査	2	2	4
脂質代謝	2	1	3

腎機能	1	0	1
尿定性検査	1	0	1
計	7	4	11

(2) 衛生指導

利用者、職員全員で毎日終業前の15分間で施設内全般の清掃を実施し、清潔な環境保持に努めた。また、作業後やトイレ使用後及び給食前に手洗いを励行し、毎日の習慣とするよう心掛けた。

(3) 感染症予防

新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルスの感染予防対策として、登所時・昼食前・トイレ後などに手・指のアルコール消毒を行った。また、1年を通して検温（自宅、施設）を実施し、マスクの着用を徹底した。施設内での感染症対策として、食堂のパーティション、更衣室の分散化、ドアノブ・手すりの消毒などを実施した。

(4) 出欠状況

ア. 出欠状況は利用者の心身の状況のバロメーターであり、データを取りながら家庭と協力して出席率を高めるよう努めた。

【就労継続支援B型】

月	在籍者数	開所日数	出席すべき延日数	欠席延日数	出席延日数	出席率(%)
4	36	21	741	38	703	94.87
5	36	20	709	40	669	94.36
6	35	22	770	44	726	94.29
7	35	22	770	43	727	94.42
8	35	21	735	65	670	91.16
9	35	21	735	38	697	94.83
10	35	22	770	33	737	95.71
11	35	22	752	38	714	94.95
12	34	20	680	38	642	94.41
1	35	20	700	44	656	93.71
2	35	21	726	67	659	90.77
3	34	21	714	57	657	92.02
計	420	253	8,802	545	8,257	93.81

※利用者の入・退所日により出席すべき延べ日数が計算通りでない月がある。

イ. 月別皆勤者・精勤者の状況

年間の皆勤者（無欠席・無遅刻・無早退）は男子2名、女子は0名の計2名。

〃 精勤者（欠席、遅刻、早退の合計3回以内）は男子3名、女子0名の計3名

【就労継続支援B】

(単位：%)

月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率(%)	月	在籍者数	皆勤者数	皆勤率(%)
4	36	26	72.22	10	35	28	80.00
5	36	28	77.78	11	35	24	68.57
6	35	27	77.14	12	34	27	79.41
7	35	24	68.57	1	35	24	68.57
8	35	20	57.14	2	35	19	54.29
9	35	28	80.00	3	34	21	61.76
				計	420	296	70.48

6. 交通安全指導

外部講師として、ヤマト運輸、浜北署の交通安全指導員等に協力をいただき交通安全に関する講話や正しい横断歩道の渡り方の指導を受けた。また、指導員などによる実地指導も行い、より実際に即した交通安全指導を目指した。

実施日	指導者	内容
8月11日	ヤマト運輸職員	夏季休暇前にヤマト運輸による交通安全教室を開催。動画を見て危険予測について話を聞いたり、みんなでどこが危険か考えました。 実際の動画を見る事で、利用者さんが理解しやすくわかりやすい内容でした。
12月25日	交通安全指導員	年末年始の休暇を迎えるにあたり、交通安全協会浜北地区支部の交通安全指導員より、講話やクイズ、交通ルールを再度教えて頂きました。クイズもあり楽しく参加する事が出来た。

7. 災害防止対策

火災と地震を交互に想定し、防災訓練を毎月実施した。通報訓練、帰宅訓練、地域防災訓練への家族ぐるみの参加の呼びかけ等も行い、防災指導に努めた。また、常に防災設備の自主点検を実施し、防災組織、緊急連絡網の確認を行い、連絡網を使った連絡訓練も実施した。

月別の防災訓練の実施状況は次表のとおりである。

【防災訓練実施状況】

	訓練種目	災害発生の想定及び対応					
		参加人数	時刻	火点	状況	避難経路・手順等	留意点
4月20日	火災通報	利用者 11 職員 11 その他	17:10			利用者帰宅後、第1作業室より出火したことを想定し、「火災発生」の発声及び施設長への報告通報訓練を実施した。一斉放送による避難誘導の指示の確認と消火班の行動確認等を実施した。また、消火設備の確認を行った。	
5月25日	地震避難	利用者 34 職員 10 その他 4	14:15		作業時間中に地震発生	身近な机や作業台の下に身を隠した。ヘルメットを着用し避難した。	効果音で地震と理解させる。机の下に隠れ、電源・窓・ヘルメットの確認を行う。
6月20日	火災避難	利用者 32 職員 11 その他 5	10:15	食堂	食堂のコンセントに埃がたまり出火	火点(食堂)を避け、施設中央口から外へ避難した。	火災に気づいた際、大きな声で周りに知らせる。職員の指示が的確に出されているか、避難経路が確保されているかを確認する。
7月25日	大雨避難帰宅訓練	利用者 34 職員 8 その他 0	15:00		作業中に大雨に対する警報が発令	浜松市から警戒レベル3(高齢者等避難)が発令されたことを想定し、保護者の情報伝達訓練を行った。	事前に配布した資料を保護者が把握しているのか、最後まで正しく情報伝達出来るのか確認する。
8月22日	火災通報避難	利用者 31 職員 10 その他 4	10:15	作業室3	作業室3で使用中のハンダゴテが倒れアルコールに引火する	火点(作業室3)を避け施設西側・中央より避難するように指導した。	避難時の利用者行動を把握し、声掛けを行う。(避難経路・残留者確認)
9月1日	総合防災訓練	利用者 31 職員 9 その他 4	9:20		予知情報のない突発的な大規模地震発生	非常災害時避難誘導要領の手順に従って避難訓練を実施。感染対策の為、引き渡し訓練は中止。	避難訓練の内容以外に、消火器の点検や防災用品の点検など施設内の不備が無いか点検を行う。

10月17日	地震避難	利用者 34 職員 10 その他 4	11:00		作業時間中に地震発生	身近な机や作業台の下に身を隠した。ヘルメットを着用し避難した	効果音で地震と理解させる。机の下に隠れ、電源・窓・ヘルメットの確認を行う。
11月1日	地震火災通報消火	利用者 33 職員 10 その他 5	10:00	食堂	作業時間中に地震が発生し、食堂より出火	安全な場所に身を伏し地震の収まるのを待ち落下物に注意し、火元の食堂を避けて非常口から避難を行った。	社会福祉施設防災訓練として実施。避難経路の確立。連絡網の確認と召集時間の確認。備蓄品、排煙口の確認。
12月19日	火災通報避難	利用者 33 職員 10 その他 4	10:45	食堂	食堂のコンセントに埃がたまり出火	火点（食堂）を避け施設東側・中央より避難するよう指導した。	避難経路の的確な指示を行う。火点を避け、姿勢を低くし煙を吸わないよう避難することを確認した。
1月23日	地震避難	利用者 34 職員 9 その他 3	14:00		作業中に地震発生	身近な机や作業台の下に身を隠した。ヘルメットを着用し避難した	効果音で地震と理解させる。机の下に隠れ、電源・窓・ヘルメットの確認を行う。
2月20日	火災通報避難	利用者 33 職員 9 その他 4	10:15	作業室3	作業室3で使用中のハンダゴテが倒れアルコールに引火する	火点（作業室3）を避け施設西側・中央より避難するよう指導した。	避難時の利用者行動を把握し、声掛けを行う。（避難経路・残留者確認）
3月19日	火災地震避難	利用者 31 職員 9 その他 2	14:00		作業中に地震発生その後火災	身近な机や作業台の下に身を隠した。ヘルメットを着用し避難した	効果音で地震と理解させる。机の下に隠れ、電源・窓・ヘルメットの確認を行う。水消火器の使用

8. 家庭との連携

家庭との連携を密にするため、次の内容で保護者と相互に連絡（連絡帳・電話）を取り合っ
て利用者の支援にあたるよう努めた。

項目	期間	内容
個別面談	随時	状況に応じ随時個別に面談し、相談にのるよう努めた。また、必要に応じて、相談支援事業所と一緒に面談を行った。
モニタリング	就労継続B 9,3月	個別に時間設定をし、保護者同席により個別支援計画に基づいた目標を評価し、必要に応じて見直し又は、変更を実施し、施設での作業や生活の様子、また家庭生活等の情報交換も行った。
連絡帳	随時	必要に応じて連絡帳により、家庭との連絡を密にするよう努めた。（自宅や施設での様子など）
サンステップ通信等	毎月1回 他随時	「サンステップ通信」を発行し、月の予定等を伝えた。また、行事や会合等の事務連絡を随時行った。
保護者会	隔月	4月に定例総会（書面決議）を行い、5、11、1、3月の隔月に定例役員会、4月に臨時の役員会を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、施設行事への協力や研修会などは中止した。

9. 地域交流

(1) ボランティアの受け入れ

絵手紙教室（地域交流スペース）

月	回数	延べ人数	参加者（講師）	内容
8	1	2名	「絵手紙のまち浜松」を育てる会	
10	1	2名	「絵手紙のまち浜松」を育てる会	
11	1	3名	「絵手紙のまち浜松」を育てる会	

2	1	2名	「絵手紙のまち浜松」を育てる会	
計	4	12名		

(※講師は、有償ボランティア)

(2) 実習生徒の受け入れ

実施期間	学校名	参加者	人数
6月19日～6月23日の5日間	県立浜北特別支援学校	高等部3年	1名
10月16日～10月20日の5日間	県立浜北特別支援学校	高等部2年	1名
10月23日～10月27日の5日間	県立浜北特別支援学校	高等部3年	1名
11月6日～11月9日の4日間	県立浜松特別支援学校	高等部2年	1名
12月1日～12月5日の3日間	県立浜北特別支援学校	高等部1年	1名

(3) 体験実習

ア 体験実習

実施期間	参加者	実施者	人数
11月20日～11月24日の5日間	相談支援センターだんだん利用者	44歳男性	1名

イ 夏休み体験実習

実施期間	学校名	実施者	人数
8月29日の1日間	県立浜北特別支援学校	高等部1年	1名

(4) 作業実習の受け入れ

担任教諭の引率によって、下記の発達支援学級等の生徒の作業実習を受け入れた。

ア 浜松市立浜北北浜中学校発達支援学級生徒

月	回数	延べ人数	内容
7	3	9名	電装部品の組立
10	3	6名	〃
計		15名	

(5) 体験学習等の受け入れ

実施期間	学校名	人数	内容
9月15日の半日間	浜松市曳馬中学校	3名	作業補助

(6) 単位実習、職員研修等の受け入れ

社会福祉援助技術現場実習

実施期間	学校名	人数
7月3日～7月22日の12日間	浜松学院大学短期大学部幼児教育科	2年生1名
7月20日～8月4日の12日間	浜松学院大学短期大学部幼児教育科	2年生1名

(7) 地域奉仕活動

12月の障害者週間にちなみ、近隣の環境整備に協力して奉仕作業を実施した。

実施日	事業名	参加者	内容

12月1日	地域奉仕活動	利用者 32名 職員 8名	金原用水沿いの草刈り及び施設周辺の除草作業。また、頻繁に利用している遠鉄芝本駅までの道のりのゴミ拾い等を行った。
-------	--------	------------------	--

10. 各種会議

施設内会議を下記のとおり実施した。

会 議	実施（曜）日	会 議	実施（曜）日
職員打ち合わせ	毎朝	支援部会議	第四以外の木曜日
職員会議	第四木曜日	ケース会議	第四木曜日以外

11. 職員研修

以下の研修に参加した。

研 修 日	研 修 名	場 所	主 催	参加者
4月11日	県セルフ協 第1回研修A委員会	静岡市	県セルフ協	施設長 1
5月15日	西部施設連絡会 施設長会	浜松市	西部施設連絡会	施設長 1
5月25日	県セルフ協 第1回総会・委員会	静岡市	県セルフ協	施設長 1
6月30日	浜北区啓発活動 第1回会議	浜松市	浜北区自立連絡会	支援員 1
7月6日	浜松市施設協 総会	浜松市	浜松市施設協	施設長 1
7月6日	経営協 総会	静岡市	経営協	施設長 1
7月22日	福祉事業所フェア	浜松市	浜松市	サビ菅 1 支援員 1
7月24日	関東セルフ研究大会に備えての視察	千葉県	県セルフ協	施設長 1
7月27日	西施連 7月研修会	浜松市	西部施設連絡会	支援員 1
8月29日	障害部会 行政との連絡会	浜松市	浜松市施設協	施設長 1
9月12日	浜北区啓発活動 第2回会議	浜松市	浜北区自立連絡会	支援員 1
10月20日	浜北区啓発活動 第3回会議	当施設	浜北区自立連絡会	支援員 1
11月3日	県知協 R5 施設長等研修会	御殿場市	県知協	施設長 1
12月4日	浜北区啓発活動 第4回会議	当施設	浜北区自立連絡会	支援員 1
1月29日	西施連 1月研修会	浜松市	西部施設連絡会	支援員 1
2月13日	県セルフ協 第2回 総会 (ZOOM)	当施設	県セルフ協	施設長 1
2月18日	児童・障害部会 職員研修	浜松市	浜松市施設協	支援員 1
2月13日	県セルフ協 虐待防止研修 (ZOOM)	当施設	県セルフ協	サビ菅 1 支援員 1

12. 利用者の状況

(1) 入退所状況 (R5/4.1~R6/3.31)

(在籍人数は 1 日現在)

区分/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
現員	男	25	25	24	24	24	24	24	24	24	25	25	25
	女	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	9
在籍	計	36	36	35	35	35	35	35	35	34	35	35	34

(2) 利用者の年齢

令和 6 年 3 月 31 日現在

年 令	男 子	女 子	計
15~19歳	0	1	1
20~29歳	9	2	11
30~39歳	5	2	7
40~49歳	3	3	6
50歳以上	8	1	9
計	25	9	34

平均年齢 男子 38.3 歳 女子 36.0 歳 全体 38.3 歳

(3) 入所期間

令和 6 年 3 月 31 日現在

期 間	男	女	計
1年未満	3	1	4
1年以上~3年未満	0	0	0
3年以上~5年未満	2	0	2
5年以上~7年未満	2	1	3
7年以上~9年未満	2	0	2
9年以上~11年未満	16	7	23
11年以上~13年未満	0	0	0
13年以上~15年未満	0	0	0
15年以上~17年未満	0	0	0
17年以上~19年未満	0	0	0
19年以上~	0	0	0
計	25	9	34

平均入所期間 男子 8.42 年 女子 9.12 年 全体年 8.62 年

(4) 入所直前の状況

区 分	男	女	計
特別支援学校等	18	6	24
作業学級、作業所等	1	0	1
児童、成人施設	3	2	5
就労、家業の手伝い、在宅	3	1	4
計	25	9	34

(注) 就職経験者は、男子 3 人 女子 0 人 計 3 人である。

(5) 通所方法

区分	通所バス	電 車	自転車	バ ス	徒 歩	自家用車	施設送迎	計
男	3	14	1	2	5	6	3	34
女	2	4	0	3	2	4	0	15
計	5	18	1	5	7	10	3	49

(註) 重複利用者を含む

(6) 手帳の所持

ア 療育手帳

区 分	A	B	なし	計
男 子	14	10	1	25
女 子	5	4	0	9
計	19	14	1	34

イ 身体障害者手帳

区 分	1 級	2 級	3 級	4 級	6 級	計
男 子	0	2	1	2	0	5
女 子	0	0	1	1	0	2
計	0	2	2	3	0	7

ウ 精神保健福祉手帳

区 分	1 級	2 級	3 級	計
男 子	0	0	0	0
女 子	0	0	0	0
計	0	0	0	0

エ 障害福祉サービス受給者証

区 分	未判定	2	3	4	5	6	計
男 子	13	0	6	5	1	0	25
女 子	4	0	4	1	0	0	9
計	17	0	10	6	1	0	34

(7) 心身障害の併有状況

区 分	男 子	女 子	計
四肢体幹機能に問題のある人	4	1	5
てんかん治療を受けている人	4	2	6
現在精神神経科に通院し投薬を受けている人	3	2	5
情緒不安定・その他特異な行動のある人	3	0	3
言語に問題のある人	10	0	10
視力に問題のある人	7	2	9
聴力に問題のある人	0	2	2
ダウン症	4	2	6
内部（心臓、呼吸器）障害のある人	2	2	4
計	37	13	50

(註) 重複障害を含む

IV. 指定障害福祉サービス事業所すだち事業報告

1. 共同生活住居「いぶき」

(1) 概況

年度当初、利用者は5名だったが、6月に不整脈が原因の死亡により、11月には高齢からくる身体機能の衰えから老人施設の利用をすることになり、そして年度末の3月には他害行為が頻繁になったことにより利用継続が困難となり、計3名が退所した。利用者減により厳しくなった運営を直視し、たちばなの関係者だけでなく門戸を広げて利用者の確保を図る必要がある。

(2) 主な行事

- ・防災訓練（8月）：火災を想定した避難訓練。消火器の使い方も実施。
- ・施設防災訓練（11月）：地震発生後、台所より出火。通報訓練。
- ・誕生会：各利用者の誕生日。

(3) 利用者の状況

(1) 入退所状況（R5/4.1～R6/3.31）

（在籍は1日現在）

区分/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
在籍	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3

(2) 利用者の年齢

（令和6年3月31日現在）

～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳～
0	0	0	1	1	1	0

(3) 利用期間

（令和6年3月31日現在）

1年未満	1～2年	3～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年～
0	0	1	0	1	1	0

(4) 利用直前の状況

区分	自宅（学校）	自宅（通所）	自宅（就労）	自宅（家業）	支援施設
人数	0	2	0	0	1

(5) 手帳の所持

※重複あり

区分	療育	身体	精神保健
人数	3	1	0

(6) 障害福祉サービス受給者証

区分	未判定	1	2	3	4	5	6
人数	1	0	0	1	1	0	0

(7) 利用者が抱える課題

※重複あり

区分	身体（歩行・排泄）	健康（生活習慣病）	情緒面（特異行動）	余暇・休日	将来
人数	0	3	1	3	3

2. 共同生活住居「すだち」

(1) 概況

建て替えられた新しいグループホームの事業開始は6月からとなり、既存利用者が新しい生活環境に徐々に慣れて行くことに配慮しつつ、体験利用などを通じて新規利用者の確保に努めた結果、5年度末の利用者数は5名となり定員を満たした。新規利用者はいずれもたちばな授産所の利用者なので新しい生活にも順応が早かった。

世話人は1名が高齢を理由に年度末に退職した。

(2) 主な実施行事

- ・防災訓練（8月）：火災を想定した避難訓練。消火器の使い方も実施。
- ・施設防災訓練（11月）：社会福祉施設防災訓練の一環。
- ・クリスマス会（12月）：クリスマスケーキを食べながら談笑した。

(3) 利用者の状況

(1) 入退所状況（R5/4.1～R6/3.31）

（在籍は1日現在）

区分/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在籍	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	5	5	5

(2) 利用者の年齢

（令和6年3月31日現在）

～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳～
0	0	2	2	1	0	0

(3) 利用期間

（令和6年3月31日現在）

1年未満	1～2年	3～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年～
2	0	0	2	0	0	1

(4) 利用直前の状況

区分	自宅（学校）	自宅（通所）	自宅（就労）	自宅（家業）	支援施設
人数	1	4	0	0	0

(5) 手帳の所持

区分	療育	身体	精神保健
人数	5	0	0

(6) 障害福祉サービス受給者証

区分	未判定	1	2	3	4	5	6
人数	0	0	1	2	2	0	0

(7) 利用者が抱える課題

※重複あり

区分	身体（歩行・排泄）	健康（生活習慣病）	情緒面（特異行動）	余暇・休日	将来
人数	0	2	2	3	5

V. 社会福祉法人たちばな会 事業報告の附属明細書

「記載事項」

該当事項はありません。